

# 取組み報告書

令和7年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業

【特定非営利活動法人 エルダーサポート協会 グループホーム愛の郷 戸手】



一般社団法人  
日本福祉用具供給協会  
中国支部 広島県ブロック

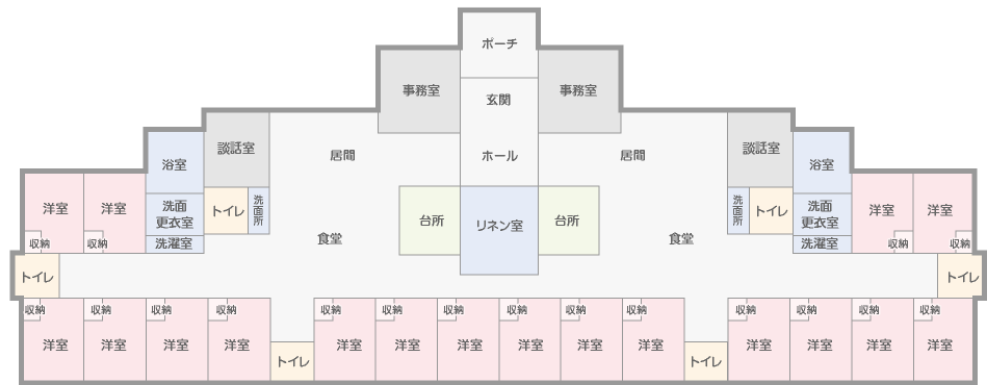
# 施設の概要

---



一般社団法人  
日本福祉用具供給協会  
中国支部 広島県ブロック

# 施設の概要



施設名	グループホーム愛の郷 戸手
施設種別	認知症対応型共同生活介護
定員	18名
開設日	平成17年7月1日
所在地	福山市新市町大字戸手2282番地1

# 取組みの流れ

---



一般社団法人  
日本福祉用具供給協会  
中国支部 広島県ブロック

# 取組みの流れ

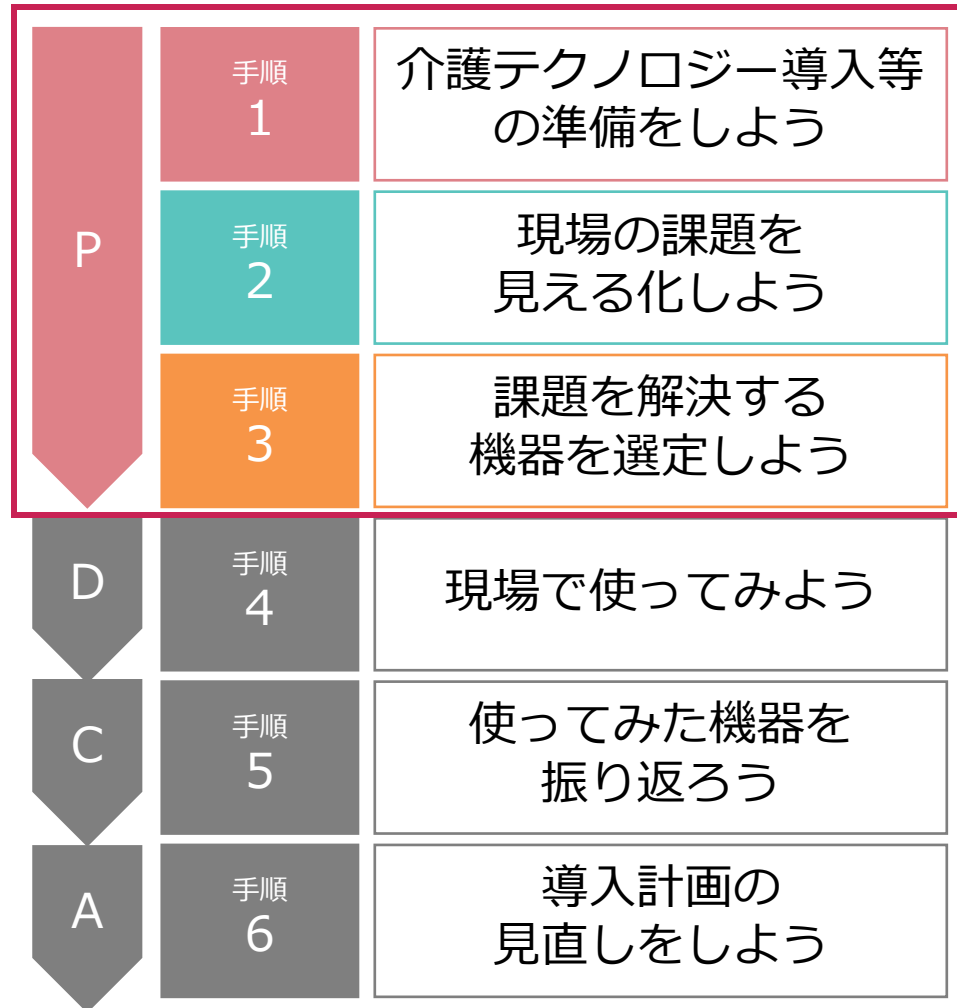
## 取組の流れ

## 具体的な取組み内容

P	手順 1	介護テクノロジー導入等の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"><li>管理者層と現場責任者、また同法人内の既に取り組を行っている事業所の現場責任者を交え、本事業所内の現状把握</li><li>現在感じている課題に対する解決手段を考察。必要に応じて機器の選定。なお、介護記録ソフトの導入については、先行して導入しているソフトウェアの導入を前提に意見のすり合わせを行う。</li><li>取組の優先順をつけるため、現場職員及び、責任者へアンケートを実施。意識合わせを行う。</li></ul>	10月下旬 ～ 12月
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう		
	手順 3	課題を解決する 機器を選定しよう		
D	手順 4	現場で使ってみよう	<ul style="list-style-type: none"><li>先行して取組を行っている事業所が導入している介護記録ソフトウェアを実際に体験する。</li></ul>	1月中旬 ～ 2月
C	手順 5	使ってみた機器を 振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"><li>紹介のあったソフトについて、機能面や使用イメージ等を現場職員からヒアリング。</li></ul>	
A	手順 6	導入計画の 見直しをしよう	<ul style="list-style-type: none"><li>今回の取組の目的を再周知。ゴールイメージを共有し、取組に係る地盤を構築する。</li></ul>	3月

# 取組みの結果

## 取組の流れ



# 手順1 介護テクノロジー導入等の準備をしよう

## 実施内容

---

- 介護現場の生産性向上の取組を行うにあたってのチームを編成。
- 今回の取組の目的、意義を共有。

### ■ 生産性向上プロジェクトチーム

- グループホーム愛の郷戸手 管理者、職員
- 小規模多機能ホーム愛の郷曙 管理者（法人アドバイザー）
- 本部（特定非営利活動法人エルダーサポート協会） 部長、主任

（福山市介護職員等負担軽減アドバイザー派遣事業）

- 福山市保健福祉局長寿社会応援部介護保険課サービス基盤担当
- 一般社団法人日本福祉用供給協会中国支部広島県ブロック

# 手順2 現場の課題を見える化しよう

## 実施内容

---

- 現場の職員が何に困っているのか、グーグルフォームを用い、管理者及び現場職員に対してアンケートを実施。
- 管理者と現場職員、それぞれの目線で感じていることを可視化する。

## 見える化された課題

---

### (現場と管理層での共通認識)

- 職員によってサービス提供方法や内容にバラツキがある
- 利用者に関する記録や転記に時間がかかっている
- 入浴介助に負担を感じる職員がいるため、解決していきたい

### (現場と管理層でバラツキが生じた項目)

- サービスに必要な情報を職員間で共有できているか？
- 申し送りの際、関わる職員が全ての情報を共有しているか？
- 利用者の記録を必要な時間に閲覧でき、見直しや参考にする仕組みができているか？ 等

### (考察)

管理層と現場との間で、共通認識はあるものの、乖離があるものが多い。  
管理層が期待すること、現場が考えている（感じている）ことのすり合わせを行うことで、  
取組のスピードアップにつながるのでは。

# 手順3 課題を解決する機器を選定しよう

## 今回選んだ解決したい課題

---

- 利用者に関する記録や転記に時間がかかっている。

## その理由・背景

---

- 法人の取組状況、並びに職員へのアンケート結果を踏まえ、取組の優先順位が高いと判断したため。

## 課題に対する現状

---

- 転記作業がルーティンとなっており、無駄な時間が削減できていない
- 情報が複数の記録媒体に転記されているため、他職種と連携する際、必要な情報をスムーズに抽出できていない

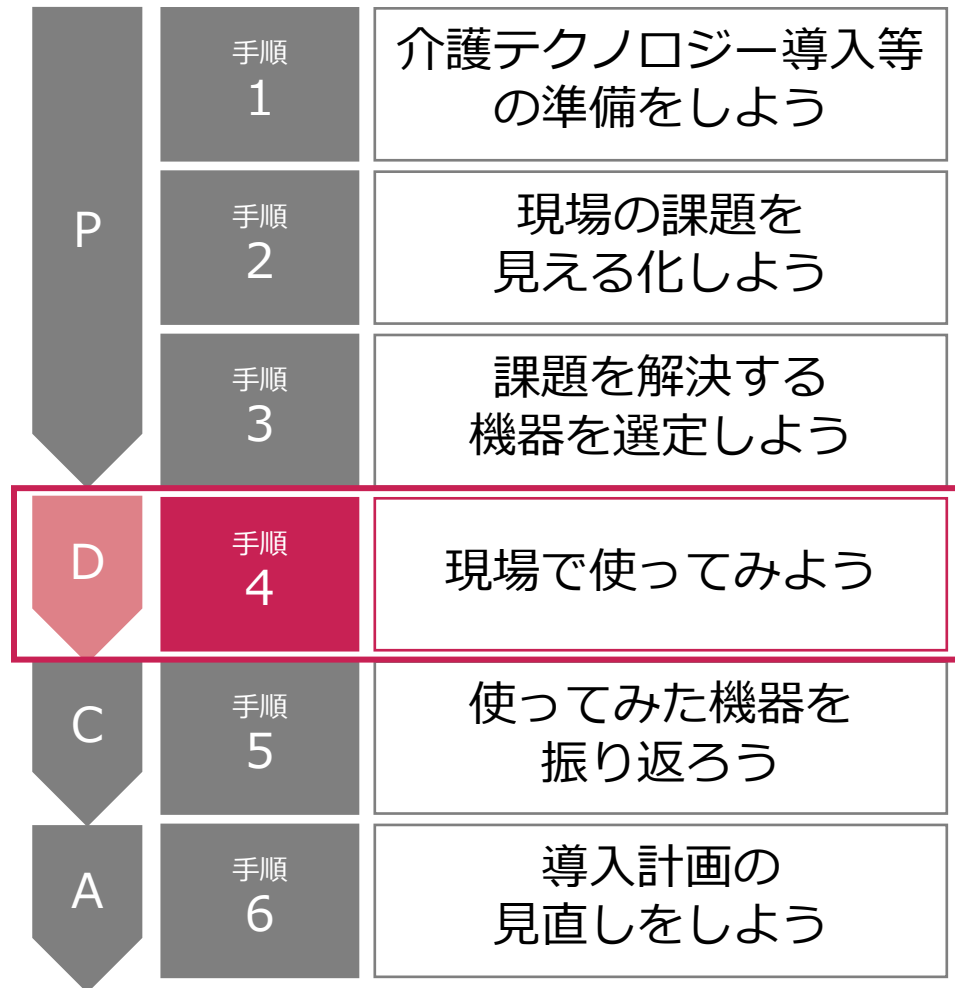
## 解決した後の姿（目標）

---

- 転記が減り、記録“作業”に係る時間を削減することで、ご利用者様へのケアに使える時間が増える。
- 情報共有がスムーズに行うことができ、言った言わないの抜け漏れがなくなっている。

# 取組みの結果

## 取組の流れ



# 手順4 現場で使ってみよう

## 実施内容

- 法人での取組を踏まえ、先行導入している介護記録ソフトのベンダーに事業所に来てもらい、システムの説明、体験を実施。

体験機器（プラスワン） URL：<https://plus1jp.com/>



# 取組みの結果

## 取組の流れ



# 手順5 使ってみた機器を振り返ろう

## 使用した結果（確認方法）

---

- ・ 紹介のあったソフトについて、機能面や使用イメージ等を現場職員からヒアリング。

## 集まった現場の声

---

- ・ 介護現場になぜ今の時点でICT（介護ソフト）導入をしなければならないのか
- ・ デモンストレーションを受け、使いこなせるか不安ではあるが前向きに取り組む
- ・ 導入後のメリットは記録業務が短縮、簡素化し、より分かり易く伝わり易い記載が残せ、日勤および夜間帯の業務改善に繋がりそう
- ・ 導入後のデメリットとしては、現行の紙媒体への記載や転記作業に慣れているので機器の取り扱いや入力作業に手間（時間）が大きく要すると思う
- ・ 外国人技能実習生が容易に日本語を選び、記録作成をする利便性は高いと感じた

# 取組みの結果

## 取組の流れ

P	手順 1	介護テクノロジー導入等の準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	課題を解決する 機器を選定しよう
D	手順 4	現場で使ってみよう
C	手順 5	使ってみた機器を 振り返ろう
A	手順 6	導入計画の 見直しをしよう

# 手順6 導入計画の見直しをしよう

## 振り返りを踏まえた今後の活動

---

- 紹介のあった介護記録ソフトの導入に向けた取組を推進する。
- 導入については、補助金の利活用を視野に入れる。
- 具体的な実施時期や定着させるための計画を立案する。

## 全体の総括（導入チームから）

---

- この度のICT導入について職員に周知した際、否定的な声は聞こえず、構えた職員もいない、取り組みに対して助け合おうという前向きな意識が高い（管理者より）
- ICT導入（介護テクノロジー）の導入が全てではなく、「5 S運動」など整理整頓で動線の確保し、事故を未然に防ぎ、日々の業務全体の見直しが再度重要だと感じた
- 法人内で他の事業所と連携をとりながら展開していく

# まとめ

## 全体を通してのコメント（アドバイザーより）

令和7年度 福山市介護職員等負担軽減アドバイザー派遣事業にエントリーいただき、誠にありがとうございました。本事業所は職員間のコミュニケーションも十分に図られており、何より皆様が「不安なこともあるけど、やってみよう！」と非常に前向きでいらっしゃるのがとても素晴らしいと思っております。

また、貴法人は昨年本事業にご参画いただいた事業所の取組を、法人内で横展開されており、管理者の方どうしのコミュニケーションも闊達になっているとのこと。

一つの事業所の取組が、他の事業所に派生していく、とても良い事例であると思っております。

是非、貴法人に留めることなく、地域の事業所の方への横展開を図っていただきたく、お願い申し上げます。

引き続きよろしくお願いいたします。



一般社団法人  
日本福祉用具供給協会  
中国支部 広島県ブロック